

参考資料

班会議 議事次第 アンケート 優先課題一覧等

厚生労働行政推進調査事業費補助金 厚生労働科学特別研究事業

アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築

平成29年度 総括研究報告書

研究代表者 玉利 真由美

平成 29 年 8 月 15 日

平成 29 年度厚生労働研究費補助金（厚生労働特別研究事業）
「アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築」
（主任研究者：玉利真由美）

趣意書

平成 26 年にアレルギー疾患対策基本法が成立し、それを受け、平成 29 年 3 月にアレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針が告示されました。この基本的な指針においては、「アレルギー疾患の諸問題の解決に向け、疫学研究、基礎研究、治療開発（橋渡し研究の活性化を含む。）及び臨床研究の長期的活戦略的な推進が必要である。」と明記されました。

これをうけ、アレルギー疾患研究 10 力年戦略を策定するために、現状の我が国における研究状況を把握し、今後、アレルギー疾患に関する有意義な研究を推進するための基盤を構築することが、喫緊の課題であるとされ、通常の政策研究事業とは異なる枠組みである厚生労働特別研究事業における本研究班にて、厚生労働省および国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の関係者を含めて検討を進めることになりました。

現状における我が国のアレルギー疾患における問題点は、①横断的問題、②垂直的問題、③国際連携における問題と考えております。これらの問題点を解決するためにも、本研究班においては、複数の関係団体が参画し、幅広い分野の専門知識を有機的に統合させることが、重要となってきます。

そのため、アレルギー疾患における主たる関連学会（日本アレルギー学会、日本小児アレルギー学会、日本呼吸器学会、日本皮膚科学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本眼科学会、日本免疫学会）等から研究協力者を御推挙いただき、本研究班へのお力添えを賜りたいと存じます。

各学会理事長の皆様におかれましては、本研究班の趣旨をご理解いただき、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成 29 年度厚生労働科学特別研究事業
「アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築」
(主任研究者：玉利真由美)
第 1 回研究者ミーティング

日 時：2017 年 8 月 15 日（火）13:30～15:30（予定）
場 所：国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED）
203 会議室
東京都千代田区大手町 1-7-1 読売新聞ビル 20 階

議事次第

- 1, 厚生労働省 「アレルギー疾患対策基本法にもとづく国の研究戦略」
- 2, 主任研究者 「本研究班の目標（仮）」
- 3, AMED より 「研究戦略策定に向けたロードマップ（仮）」
- 4, 討論
(休憩)
- 5, 研究協力者の人選
- 6, 課題フォーマット作成について（意見聴取）

資料：議事次第

第 1 回研究者ミーティング出席者名簿

資料 1 研究計画書

資料 2 厚生労働省資料

資料 3 研究班スケジュール

資料 4 各理事長への趣意書（案）

資料 5 研究協力者一覧（案）

資料 6 研究協力者への課題フォーマット（案）

参考資料 1 アレルギー疾患対策基本法

参考資料 2 アレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針

参考資料 3 がん研究 10 年戦略

平成 29 年度厚生労働科学特別研究事業
「アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築」

(主任研究者：玉利真由美)

出席者名簿

玉利真由美	東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 基盤研究施設（分子遺伝学）教授
松本 健治	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 部長
海老澤元宏	国立病院機構 相模原病院 臨床研究センター 副センター長
藤枝 重治	福井大学医学部 感覚運動医学講座 耳鼻咽喉科頭頸部外科学 教授
天谷 雅行	慶應義塾大学医学部 皮膚科学教室 教授
足立 剛也	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED） 戦略研究部 難病研究課 AMED プログラムオフィサー
オブザーバー 貝沼 圭吾	厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課 課長補佐

平成 29 年度厚生労働科学特別研究事業
「アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築」

(主任研究者：玉利真由美)

第 1 回研究者ミーティング 議事録

日 時：2017 年 8 月 15 日 (火) 13:30～15:30

場 所：国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED) 203 会議室

出席者 玉利真由美、松本健治、海老澤元宏、藤枝重治、天谷雅行、足立剛也、貝沼圭吾

1, 厚生労働省、貝沼圭吾より「アレルギー疾患対策基本法にもとづく国の研究戦略」について説明

2, 主任研究者 玉利真由美より 「本研究班の目標」について説明

背景 平成 26 年にアレルギー疾患対策基本法が成立。平成 31 年度からアレルギー疾患 10 ヶ年戦略を策定するため、アレルギー疾患の有意義な研究を推進するための基盤形成が必要。

目的 1) 予防 2) 寛解 3) 根治 を目的とした研究の推進

平成 31 年度より 10 年間にどのような研究を推進すべきか、提言書をまとめる。

成果 1) 人材育成 2) 診断法の確立 3) 治療法の確立 を目指す

3, AMED 足立剛也より 「研究戦略策定に向けたロードマップ」について説明

ヒトとデータへの価値の源泉の移行があること、国際連携の推進と尖った戦略が必要であること、特定の疾患・学会を超えた連携が重要であること、不合理な当初戦略には見直し可能とする明確な目標設定と将来を見据えたヒトとデータ収集が必須であることなどの説明があった。また産学連携で推進されている国際希少疾患研究コンソーシアムの活動が紹介され、Patient Public Involvement (PPI) の観点から、診断/治療/ケアが患者さんに届くまでを目標として国際的な標準化をもとに、世界の新薬承認を対象としてプロジェクトが行われていることが紹介された。

4, 下記の討論を行った

法律では 6 疾患 (気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、花粉症、

食物アレルギー、アレルギー性結膜炎)を対象としているが、研究戦略では6疾患に加え、その他の疾患を広く対象とすることで合意を得た。

検討協議会は下記の構成とすることで合意を得た。

研究代表者+研究分担者+研究協力者及び厚生労働省により構成

検討協議会	
7学会代表者	研究者会議
シニア7名	研究代表者(玉利)
若手7名	研究分担者(天谷、松本、藤枝、海老澤、足立)
	厚労省

研究協力者(候補):中心となる下記の7学会から2名ずつご推挙いただく
日本アレルギー学会、日本小児アレルギー学会、日本皮膚科学会、日本眼科学会、
日本呼吸器学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本免疫学会
研究協力者については、各学会から2名(教授クラスのシニア研究者1名、10
カ年計画全期間にわたって内容を確認いただくため原則として45歳以下の若手
研究者1名)をご推挙いただくこととなった。

9月下旬までに研究分担者が意見書を作成することとした

1つのテーマについて(複数可能)

*現状把握、*課題の抽出、*志や展望を記載

下記の3つの問題を念頭に短期・中期・長期10年計画についての意見を提出し
ていただく。現在の問題点・目的・期待される成果を具体的に明記する

- 1) 横断的問題 複数の診療科にまたがる問題
- 2) 垂直的問題 母体→乳幼児→小児→成人への移行
- 3) 国際連携 データベースの構築と活用(希少疾患で先行)

それぞれ3本の柱*人材育成と患者連携「ヒト」、*治療開発と基盤整備「モノ」、
*診断推進と持続的研究「コト」について記載する。

タイムスケジュールについて確認した

2017年

- 8月 8/15(火曜日) 研究者会議 AMED 会議室(大手町) 13:30~15:00
- 8月 月末までに7学会の理事長にご挨拶・主旨説明
- 9月 研究分担者に意見書を提出していただく

- 10月 第2回研究者ミーティング 2017.10.11 (水曜日) 10:00~12:00
全体で9月の意見書をもとに討議
- 11月 研究計画書の提出
- 2018年
- 1月 2018.1.17 (水曜日) 10:00~12:00 研究計画書をもとに討議
(小グループミーティング)
- 2月 第3回研究者ミーティング 2018.2.23 (金曜日) 16:00~18:00
全体で研究計画書の討議
- 3月 最終案

免疫・アレルギー研究基盤形成に向けた戦略策定に関するアンケート

2017年8月23日

厚生労働科学特別研究事業

「アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築」研究班

平成26年にアレルギー疾患対策基本法が成立し、それを受け、平成29年3月にアレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針が告示されました。この基本的な指針においては、「アレルギー疾患の諸問題の解決に向け、疫学研究、基礎研究、治療開発（橋渡し研究の活性化を含む。）及び臨床研究の長期的かつ戦略的な推進が必要である。」と明記されました。

これをうけ、アレルギー疾患研究10カ年戦略を策定するために、現状の我が国における研究状況を把握し、今後、アレルギー疾患に関する有意義な研究を推進するための基盤を構築することが、喫緊の課題であるとされ、通常の政策研究事業とは異なる枠組みである厚生労働特別研究事業における本研究班にて、厚生労働省および国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の関係者を含めて検討を進めることになりました。この度、各学会の代表としてご協力をご承諾いただきました先生方に、厚く御礼申し上げます。

本研究班では、別紙1のロードマップのごとく戦略策定に資する報告書作成を進めて行く方針ですが、まず本アンケートにて先生方のご意見を共有いただければ幸いです。別紙2が現時点での戦略策定ポートフォリオ（案）であり、過去の取組みや失敗／成功例、現在の状況・課題を背景として各枠に望まれる展望や野心的挑戦等をご記載いただけますでしょうか。

なお、本研究では厚労省との協議の過程で、以下の3つの問題点を重要視しており、記載にあたってはこれらの観点を可能な限り含めていただければ幸いです。また、キーワードになり得るものについては別紙3のごとく例示しておりますが、連携・活用すべき既存の事業・基盤等ありましたら併せてご教授いただくと大変参考になります。枠については特に制限を設けておりませんので、ご自由にご記載下さい。

ご多忙のところ大変恐縮ですが、先生方の貴重な御意見を頂けると幸甚です。宜しくお願い致します。

【3つの問題点】

- 4) 横断的問題 複数の診療科にまたがる問題
- 5) 垂直的問題 母体→乳幼児→小児→成人への移行
- 6) 国際連携 データベースの構築と活用（希少疾患で先行）

（〇）提出者（恐縮ながらファイル名の（ご氏名）のところも変更いただければ幸いです）
所属学会／所属施設・科／お名前：

(1) 「ヒト」：人材育成、患者連携等

(ア)現状把握・過去の事例等：各学会、各領域等における現在の状況・課題および過去の取り組みや失敗／成功例についてご記載下さい。特に過去の失敗例については多くの学ぶべきところがあり、積極的にご共有いただければ幸いです。

例：〇〇領域では現在このような取組みがなされているが、××といった点で課題が指摘されている。過去には△△という仕組みが試みられ、□□といった問題から失敗に終わった。

(イ)短中期的に望まれること：戦略策定から5年以内の短・中期的に達成が望まれることについてご記載下さい。特に短期での達成には既存の基盤や事業との連携が重要となりますので、活用・連携すべきものがあればご教授いただければ幸いです。

例：××という観点を戦略に盛り込み、〇〇すること、および△△事業との連携が必要である。

(ウ)長期的に望まれること、野心的な取組み：戦略策定から5年以上かけて10年後を見据えて達成が望まれる野心的な取組みについてご記載下さい。日本が世界に先駆けて本研究領域をリードするための「とがった」ご提案があればご教授いただければ幸いです。

例：将来の〇〇を見据え、多学会連携で××を行うことが望まれる。

(2) 「モノ」：治療開発、基盤整備等

(ア)現状把握・過去の事例等：各学会、各領域等における現在の状況・課題および過去の取り組みや失敗／成功例についてご記載下さい。特に過去の失敗例については多くの学ぶべきところがあり、積極的にご共有いただければ幸いです。

例：〇〇領域では現在このような取り組みがなされているが、××といった点で課題が指摘されている。過去には△△という取り組みが試みられ、□□といった問題から失敗に終わった。

(イ)短中期的に望まれること：戦略策定から5年以内の短・中期的に達成が望まれることについてご記載下さい。特に短期での達成には既存の基盤や事業との連携が重要となりますので、活用・連携すべきものがあればご教授いただければ幸いです。

例：××という観点を戦略に盛り込み、〇〇すること、および△△事業との連携が必要である。

(ウ)長期的に望まれること、野心的な取り組み：戦略策定から5年以上かけて10年後を見据えて達成が望まれる野心的な取り組みについてご記載下さい。日本が世界に先駆けて本研究領域をリードするための「とがった」ご提案があればご教授いただければ幸いです。

例：将来の〇〇を見据え、多学会連携で××を行うことが望まれる。

(3) 「コト」：診断推進、持続的研究等

(ア)現状把握・過去の事例等：各学会、各領域等における現在の状況・課題および過去の取り組みや失敗／成功例についてご記載下さい。特に過去の失敗例については多くの学ぶべきところがあり、積極的にご共有いただければ幸いです。

例：〇〇領域では現在このような取り組みがなされているが、××といった点で課題が指摘されている。過去には△△という取り組みが試みられ、□□といった問題から失敗に終わった。

(イ)短中期的に望まれること：戦略策定から5年以内の短・中期的に達成が望まれることについてご記載下さい。特に短期での達成には既存の基盤や事業との連携が重要となりますので、活用・連携すべきものがあればご教授いただければ幸いです。

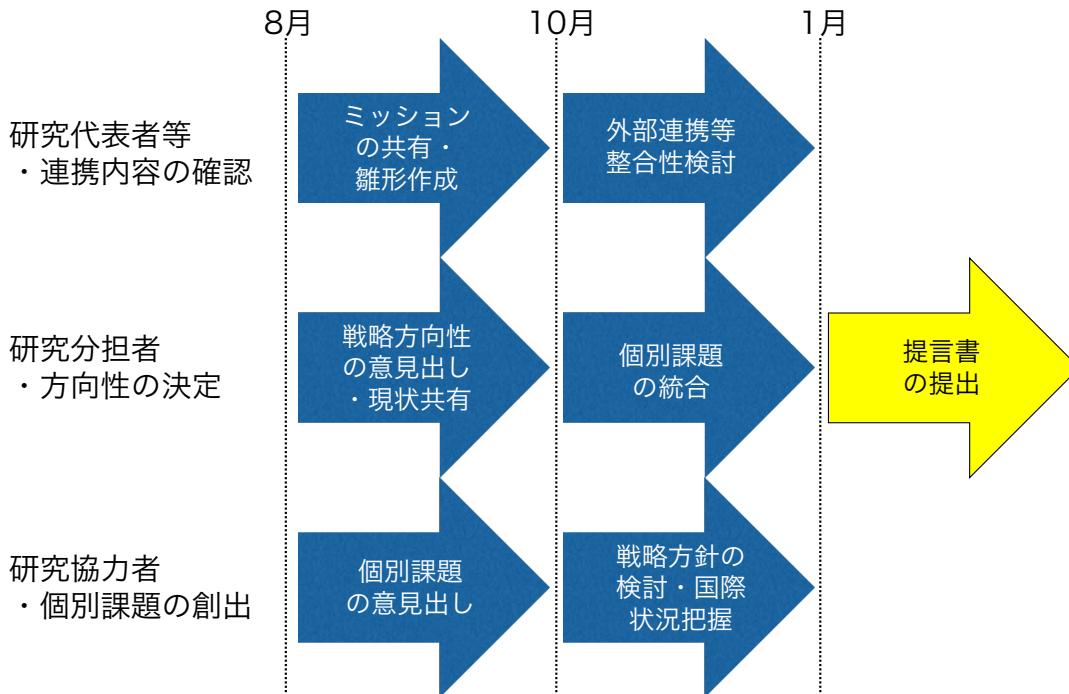
例：××という観点を戦略に盛り込み、〇〇すること、および△△事業との連携が必要である。

(ウ)長期的に望まれること、野心的な取り組み：戦略策定から5年以上かけて10年後を見据えて達成が望まれる野心的な取り組みについてご記載下さい。日本が世界に先駆けて本研究領域をリードするための「とがった」ご提案があればご教授いただければ幸いです。

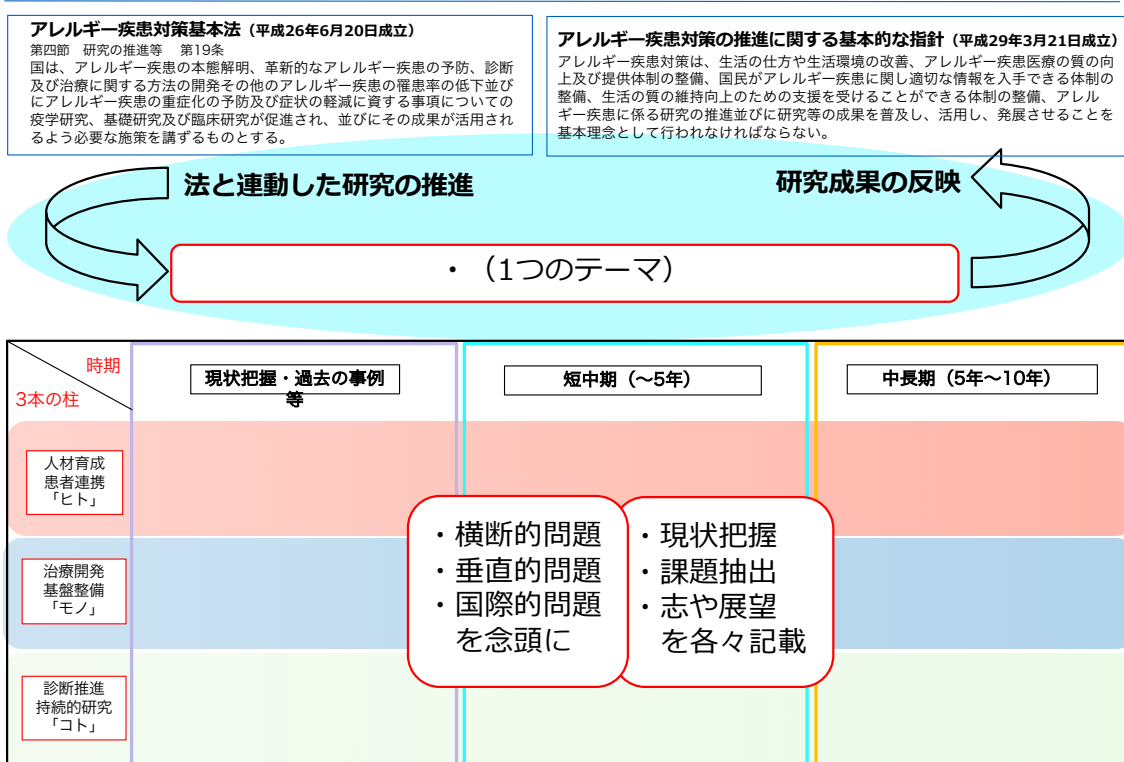
例：将来の〇〇を見据え、多学会連携で××を行うことが望まれる。

- (4) その他免疫・アレルギー領域を発展させるための研究開発や社会実装を進める上で、御意見があれば以下の枠内にご記載下さい（自由記述）。

別紙1：本研究班におけるロードマップ



別紙2：ポートフォリオ案



別紙3：キーワードの棚卸し（例）

「ヒト」

- ・ 次世代を担う若手
- ・ 国際連携を主導する人材
- ・ 基礎研究者の育成
- ・ データ/試料/倫理専門家
- ・ 開発/知財/薬事専門家
- ・ Patient Public Involvement
- ・ 人材間をつなぐ調整役

「コト」

- ・ 疾患概念の再確立/診断体制整備
- ・ Rare to Common
- ・ 年齢/性差/個別化医療
- ・ 統合ガイドラインの策定
- ・ 長期持続的研究の支援
- ・ 診断/治療/ケアの効率的還元
- ・ 評価方法の確立

「モノ」

- ・ 革新的治療法・予防法・診断法
- ・ データレジストリ/バイオバンク
- ・ 標準化臨床情報&解析データ
- ・ 革新的解析拠点の整備
- ・ データ解析技術の向上

政策

- ・ アレルギー疾患医療提供体制の整備
- ・ 医療の質の均てん化
- ・ 医療を受給する側の体制整備
- ・ 情報発信・普及啓発

平成 29 年度厚生労働科学特別研究事業
「アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築」
(主任研究者：玉利真由美)
第 1 回検討協議会

日 時：2017 年 10 月 11 日（水）10:00～12:00（予定）
場 所：国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED）
206 会議室
東京都千代田区大手町 1-7-1 読売新聞ビル 20 階

議事次第

- 1, 厚労省、AMED 担当課紹介、挨拶
- 2, 研究班の趣旨、スケジュール説明：代表研究者 玉利真由美
- 3, 資料説明
- 4, 討論①『ヒト』
(休憩)
- 5, 討論②『モノ』
- 6, 討論③『コト』
- 7, 総合討論、今後の方針

資料：議事次第

研究班名簿

資料 1 玉利先生資料（研究班趣旨、スケジュール）

資料 2 事前アンケート統合

資料 3 Keyword 分類

参考資料 1 アレルギー疾患対策基本法

参考資料 2 アレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針

参考資料 3 がん研究 10 年戦略

平成 29 年度厚生労働科学特別研究事業
「アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築」
(主任研究者：玉利真由美)

研究者名簿

代表研究者

玉利真由美 東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 基盤研究施設 (分子遺伝学) 教授

分担研究者

松本 健治 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター研究所
免疫アレルギー・感染研究部 部長
海老澤元宏 国立病院機構 相模原病院 臨床研究センター 副センター長
藤枝 重治 福井大学医学部 感覚運動医学講座 耳鼻咽喉科頭頸部外科学 教授
天谷 雅行 慶應義塾大学医学部 皮膚科学教室 教授
足立 剛也 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
戦略研究部 難病研究課 AMED プログラムオフィサー

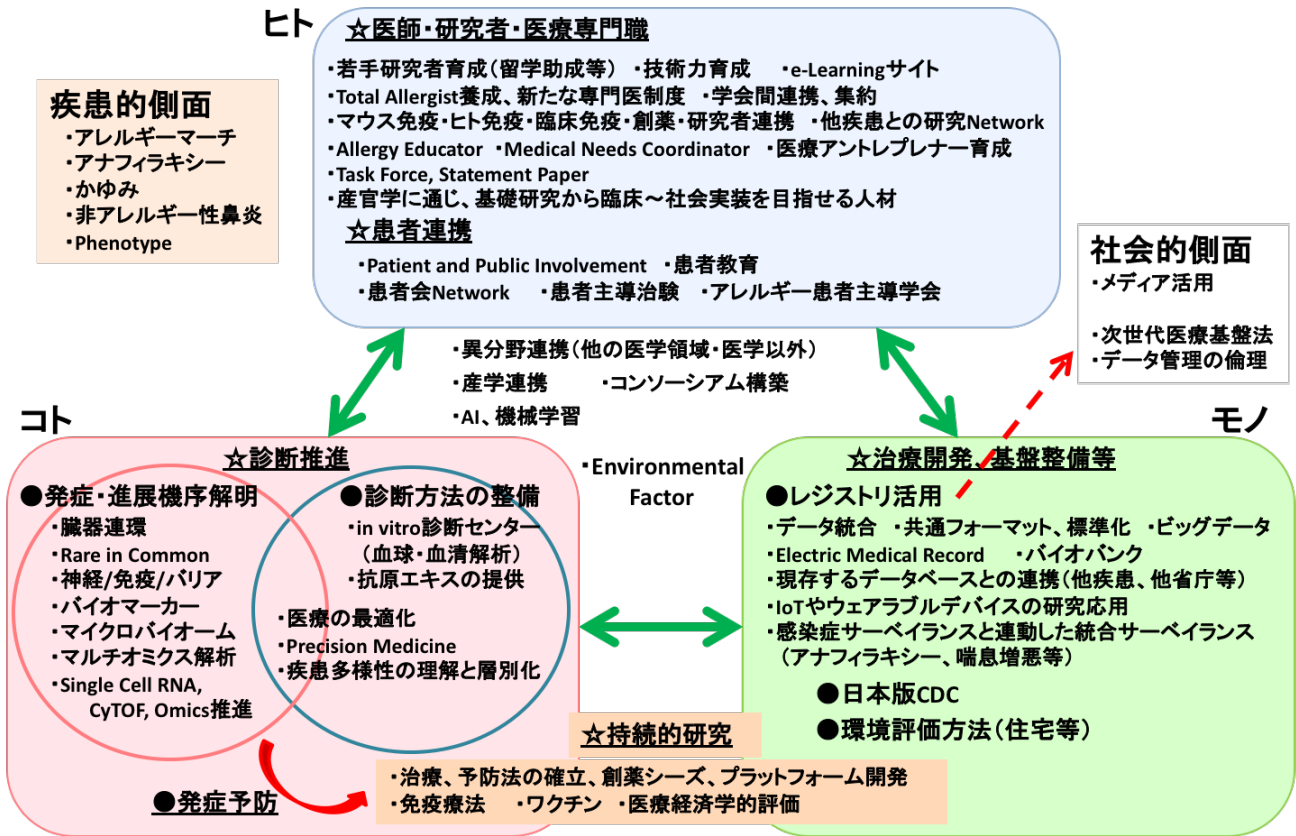
研究協力者 (五十音順)

浅野浩一郎 東海大学医学部 呼吸器内科 教授
石井 健 医薬基盤・健康・栄養研究所 ワクチンアジュバント研究センター センター長
伊藤 浩明 あいち小児保健医療総合センター 副センター長
内尾 英一 福岡大学医学部 眼科学 教授
岡野 光博 国際医療福祉大学 耳鼻咽喉科 教授
柊島 健治 京都大学大学院医学研究科 皮膚科学教室 教授
近藤 健二 東京大学 耳鼻咽喉科 准教授
今野 哲 北海道大学 第一内科 准教授
佐伯 秀久 日本医科大学大学院 皮膚科学・皮膚粘膜病態学 教授
長尾みづほ 国立病院機構 三重病院 臨床研究部 アレルギー疾患治療開発研究室 室長
檜澤 伸之 筑波大学大学院 呼吸病態医学分野 教授
福島 敦樹 高知大学医学部 眼科学講座 教授
森田 英明 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター研究所
免疫アレルギー・感染研究部 アレルギー研究室 室長
山本 一彦 理化学研究所 自己免疫疾患研究チーム チームリーダー

オブザーバー

岩本 愛吉 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 戦略推進部 部長
針田 哲 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 戦略推進部 次長
佐々木昌弘 厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課 課長
丹藤 昌治 厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課 推進官
貝沼 圭吾 厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課 課長補佐

アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築 Keyword分類



2017.10.31

研究分担者及び研究協力者にレポート作成依頼

課題の優先順位アンケートを集計し、高い優先度（点数）がつけられたもの 12 項目を、それぞれの項目が多く含まれていた Action を 3 つの柱として選出
研究分担者及び研究協力者にレポートの作成を依頼した

Action 1: 先制治療等を目指す免疫・アレルギーの本態解明に関する基盤研究
・患者 phenotypeの標準化と層別化 (←疾患多様性の理解と層別化)
・ Precision Medicine (マルチオミックス解析等) に立脚した将来の先制治療の実用化を目指す研究
・ 宿主因子 (Genetic/epigenetic background等) と外的因子の相関に着目した免疫アレルギー解析の推進
・ 臓器連関/領域統合に関するアレルギー研究 (神経/免疫/バリア, 呼吸器/消化器/皮膚, 眼科/耳鼻科等)
Action 2: 免疫アレルギー研究の効果的な推進と評価に関する横断研究
・ 免疫アレルギー領域における真の Unmet medical needsの調査研究
・ Patient Public Involvementに関する患者団体との連携/教育プログラムの推進
・ 免疫アレルギー領域に特化したCIRB基盤構築とスムーズな同意再取得等プラットフォームの開発研究
・ 免疫アレルギー領域における国際連携推進, 人材育成に関する基盤構築研究 (HFSP, ワークショップ等)
Action 3: ライフステージ等免疫・アレルギー疾患の継時的特性に注目した重点研究
・ 母子関連を含めた小児アレルギー
・ 高齢者を含めたadult-onsetアレルギー
・ 難治性のアレルギー
・ 希少疾患と関連するアレルギー

平成 29 年度厚生労働科学特別研究事業
「アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築」

(主任研究者：玉利真由美)

小グループミーティング

日 時：2018 年 1 月 17 日（水曜日）10:00～12:00（予定）

場 所：東京慈恵会医科大学 2号館 3階 B会議室
東京都港区西新橋 3-25-8

議事次第

1, 主任研究者 はじめに（進捗状況説明）

2, 小グループミーティング

前半

Action 1: 先制治療等を目指す免疫・アレルギーの本態解明に関する基盤研究

(司会 玉利) 天谷、松本、浅野、佐伯、内尾、福島、檜澤、今野、山本

Action 2: 免疫アレルギー研究の効果的な推進と評価に関する横断研究

(司会 足立) 藤枝、海老澤、森田、伊藤、長尾、椛島、岡野、近藤、石井

後半

Action 1: 先制治療等を目指す免疫・アレルギーの本態解明に関する基盤研究

(司会 足立) 藤枝、海老澤、森田、長尾、椛島、福島、檜澤、今野、近藤、山本

山本

Action 3: ライフステージ等免疫・アレルギー疾患の継時的特性に注目した重点研究

(司会 玉利) 天谷、松本、浅野、伊藤、佐伯、内尾、岡野、石井

(休憩)

3, 総合討論

資料：議事次第

第 1 回研究者ミーティング出席者名簿

資料 1 研究班スケジュール（スライドハンドアウト）

資料 2 全レポート資料

平成 29 年度厚生労働科学特別研究事業
「アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築」

(主任研究者：玉利真由美)

研究者名簿

代表研究者

玉利真由美 東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 基盤研究施設（分子遺伝学）教授

分担研究者

松本 健治 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター研究所
免疫アレルギー・感染研究部 部長
海老澤元宏 国立病院機構 相模原病院 臨床研究センター 副センター長
藤枝 重治 福井大学医学部 感覚運動医学講座 耳鼻咽喉科頭頸部外科学 教授
天谷 雅行 慶應義塾大学医学部 皮膚科学教室 教授
足立 剛也 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
戦略研究部 難病研究課 AMED プログラムオフィサー

研究協力者（五十音順）

浅野浩一郎 東海大学医学部 呼吸器内科 教授
石井 健 医薬基盤・健康・栄養研究所 ワクチンアジュバント研究センター センター長
伊藤 浩明 あいち小児保健医療総合センター 副センター長
内尾 英一 福岡大学医学部 眼科学 教授
岡野 光博 国際医療福祉大学 耳鼻咽喉科 教授
椛島 健治 京都大学大学院医学研究科 皮膚科学教室 教授
近藤 健二 東京大学 耳鼻咽喉科 准教授
今野 哲 北海道大学 第一内科 准教授
佐伯 秀久 日本医科大学大学院 皮膚科学・皮膚粘膜病態学 教授
長尾みづほ 国立病院機構三重病院臨床研究部アレルギー疾患治療開発研究室 室長
檜澤 伸之 筑波大学大学院 呼吸病態医学分野 教授
福島 敦樹 高知大学医学部 眼科学講座 教授
森田 英明 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター研究所
免疫アレルギー・感染研究部 アレルギー研究室 室長
山本 一彦 理化学研究所 自己免疫疾患研究チーム チームリーダー

平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金 厚生労働科学特別研究事業
アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築

小グループミーティング 出席者名簿

平成 30 年 1 月 17 日水曜日

東京慈恵会医科大学 2 号館 3 階 B 会議室 10:00-12:00

玉利真由美	東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 基盤研究施設（分子遺伝学）教授
松本 健治	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 部長
海老澤元宏	国立病院機構 相模原病院 臨床研究センター 副センター長
藤枝 重治	福井大学医学部 感覚運動医学講座 耳鼻咽喉科頭頸部外科学
足立 剛也	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 戦略研究部 難病研究課 AMED プログラムオフィサー
浅野浩一郎	東海大学医学部 呼吸器内科 教授
石井 健	医薬基盤・健康・栄養研究所 ワクチンアジュバント研究センター センター長
伊藤 浩明	あいち小児保健医療総合センター 副センター長
内尾 英一	福岡大学医学部 眼科学 教授
岡野 光博	国際医療福祉大学 耳鼻咽喉科 教授
椛島 健治	京都大学大学院医学研究科 皮膚科学教室 教授
近藤 健二	東京大学 耳鼻咽喉科 准教授
今野 哲	北海道大学 第一内科 准教授
佐伯 秀久	日本医科大学大学院 皮膚科学・皮膚粘膜病態学 教授
長尾みづほ	国立病院機構三重病院臨床研究部アレルギー疾患治療開発研究室 室長
檜澤 伸之	筑波大学大学院 呼吸病態医学分野 教授
福島 敦樹	高知大学医学部 眼科学講座 教授
森田 英明	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 アレルギー研究室 室長
山本 一彦	理化学研究所 自己免疫疾患研究チーム チームリーダー
オブザーバー	
貝沼 圭吾	厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課 課長補佐
高倉 美智子	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 難病研究課
今西 典昭	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 難病研究課

平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金 厚生労働科学特別研究事業
アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築

第 2 回検討協議会 議事次第

平成 30 年 2 月 23 日 金曜日

東京慈恵会医科大学 2 号館 3 階 B 会議室 16:00-18:00

- ・全体の構成の確認 (5 分)
 - ・1. はじめに、8. 組織、9. 謝辞の確認 (5 分)
 - ・4. Action 1 の黄色、緑、マゼンダ部分を中心とした確認→その他に修正や追加が望まれる点の確認 (15 分)
 - ・5. Action 2 の黄色、緑、マゼンダ部分を中心とした確認→その他に修正や追加が望まれる点の確認 (15 分)
 - ・6. Action 3 の黄色、緑、マゼンダ部分を中心とした確認→その他に修正や追加が望まれる点の確認 (15 分)
- (黄色部分は修正が望まれる部分、緑色部分は各学会に対応が求められる可能性がある点、マゼンダ部分は項目ごとの連携)

休憩(15 分)

- ・2. 本報告書の目的・作成の経緯および特徴(10 分)
- ・3. ビジョン、ゴール(およびアクションプラン)(30 分)
- ・自由討論 (10 分)

課題及び担当者 一覧

Action 1: 先制治療等を目指す免疫・アレルギーの本態解明に関する基盤研究

(研究分担者 玉利、足立)

- ・患者 phenotype の標準化と層別化 (←疾患多様性の理解と層別化)
(佐伯、長尾、近藤、森田、今野)
- ・Precision Medicine (マルチオミックス解析等) に立脚した将来の先制治療の実用化を目指す研究 (山本、檜澤)
- ・宿主因子 (Genetic/epigenetic background 等) と外的因子の相関に着目した免疫アレルギー解析の推進 (檜澤、浅野)
- ・臓器連関/領域統合に関するアレルギー研究 (神経/免疫/バリア, 呼吸器/消化器/皮膚, 眼科/耳鼻科等) (今野、福島)

Action 2: 免疫アレルギー研究の効果的な推進と評価に関する横断研究

(研究分担者 玉利、藤枝、海老澤)

- ・免疫アレルギー領域における真の Unmet medical needs の調査研究
(長尾、岡野)
- ・Patient Public Involvement に関する患者団体との連携/教育プログラムの推進
(伊藤、近藤)
- ・免疫アレルギー領域に特化した CIRB 基盤構築とスムーズな同意再取得等プラットフォームの開発研究 (石井、足立)
- ・免疫アレルギー領域における国際連携推進, 人材育成に関する基盤構築研究 (HFSP, ワークショップ等) (森田、椋島)

Action 3: ライフステージ等免疫・アレルギー疾患の継時的特性に注目した重点研究

(研究分担者 玉利、天谷、松本)

- ・母子関連を含めた小児アレルギー (伊藤、佐伯)
- ・高齢者を含めた adult-onset アレルギー (浅野、岡野)
- ・難治性のアレルギー (内尾、浅野)
- ・希少疾患と関連するアレルギー (石井、足立)

平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金 厚生労働科学特別研究事業
アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築

第 2 回検討協議会 出席者名簿

平成 30 年 2 月 23 日金曜日

東京慈恵会医科大学 2 号館 3 階 B 会議室 16:00-18:00

玉利真由美	東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 基盤研究施設（分子遺伝学）教授
松本 健治	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 部長
海老澤元宏	国立病院機構 相模原病院 臨床研究センター 副センター長
天谷 雅行	慶應義塾大学医学部 皮膚科学教室 教授
足立 剛也	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 戦略研究部 難病研究課 AMED プログラムオフィサー
浅野浩一郎	東海大学医学部 呼吸器内科 教授
石井 健	医薬基盤・健康・栄養研究所 ワクチンアジュバント研究センター センター長
伊藤 浩明	あいち小児保健医療総合センター 副センター長
内尾 英一	福岡大学医学部 眼科学 教授
佐伯 秀久	日本医科大学大学院 皮膚科学・皮膚粘膜病態学 教授
長尾みづほ	国立病院機構三重病院臨床研究部アレルギー疾患治療開発研究室 室長
檜澤 伸之	筑波大学大学院 呼吸病態医学分野 教授
福島 敦樹	高知大学医学部 眼科学講座 教授
森田 英明	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 アレルギー研究室 室長

オブザーバー

貝沼 圭吾	厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課 課長補佐
高倉 美智子	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 難病研究課
今西 典昭	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 難病研究課